

第43号

新年号

# 清流

川メール



Shizuoka Prefecture

発行日／平成31年1月1日

発 行／静岡県河川協会

(事務局：交通基盤部河川砂防局)

E-mail:kasenk\_s@yahoo.co.jp

〒420-8601 静岡県静岡市葵区追手町9番6号

TEL：054-221-3032 FAX：054-221-3260



焼津漁港から望む富士山



御前崎岬(御前崎市)

## CONTENTS

### 新春挨拶&河川協会の取組

静岡県河川協会長新春挨拶	1
静岡県河川協会県外視察研修会	1
静岡県河川協会河川等功労者表彰式	2
河川関係事務研修会	2
災害復旧事業促進全国大会・治水事業促進全国大会	2

### 県内のトピックス

多自然川づくり全国大会で発表(富士土木事務所)	3
平成30年7月豪雨災害を踏まえた緊急対応について	3
海岸事業を進めています(清水海岸・竜洋海岸)	4
『第23回水シンポジウム2018inふじのくに・沼津』を開催しました	4
広島県呉市派遣レポート	5

### わがまちの川自慢

東伊豆町、伊豆の国市	6
------------	---

### インフォメーション

『第18回しづおか川自慢大賞』が開催されます	7
河川・海岸、道路愛護団体等表彰式を開催しました	7
事務局お知らせ、個人会員募集	7

# 静岡県河川協会長新春挨拶

平成31年の新たな年を迎え、謹んで新春の御挨拶を申し上げます。

会員の皆様をはじめ関係機関の皆様方には、日頃から河川・海岸事業の推進及び当協会の運営に深い御理解と温かい御支援を賜り厚く御礼申し上げます。

昨年も、気候変動等に伴う水害が全国各地で発生しており、西日本を中心に広い範囲で被害をもたらした7月豪雨では、多くの尊い命が犠牲となりました。

また、静岡県においても、9月に発生した台風24号により、県西部を中心に大規模な停電が発生するなど県民生活に大きな影響を与えました。

こうした状況の中、県民の生命や財産を守るために、国や県及び流域市町等は「水防災意識社会の再構築」に向けて、豪雨や津波による被害を減災するためのハード・ソフト対策を総合的かつ一体的に推進しています。

本年は「平成」から新元号となる節目の年となります。気持ちも新たに、河川・海岸事業の一層の推進のため、会員間、関係機関との連携を深め、事業展開してまいりますので、皆様には一層の御支援、御協力をお願いいたします。



静岡県河川協会

会長 田辺 信宏 (静岡市長)

## 静岡県河川協会県外視察研修会

平成30年10月18日から19日に「静岡県河川協会県外視察研修会」を京都府、大阪府、兵庫県で開催し、県や市町の河川事業担当者28名が参加しました。

### 【天ヶ瀬ダム】

地域活性化に寄与する取組として、ダムを観光資源としたインフラ(ダム)ツーリズムが全国的に展開されています。

天ヶ瀬ダムは「洪水調節」、「発電」、「上水道」を目的に建設されたドーム型アーチ式コンクリートダムです。近畿地方整備局淀川ダム統合管理事務所の職員が世界遺産の平等院など多くの観光地があり立地条件的に観光資源として天ヶ瀬ダムを活用できると考え、平成28年8月6・7日の2日間にわたり近畿地方整備局、京都精華大学、宇治市、宇治市観光協会が協力してプロジェクトマッピングを開催しており、取組の経緯とインフラ(ダム)ツーリズムの効果を学びました。

### 【淀川アーバンキャンプ2018・道頓堀川水辺整備事業】

平成27年度から「淀川アーバンキャンプ」は、近畿地方整備局淀川河川事務所と大阪商工会議所の主催により民間連携による賑わい創出に向け、民間事業者の主体的な事業を受け入れる仕組みづくりと、民間事業継続の可能性を検証するため社会実験を行っており、これまでの取組と今後の事業展開について学びました。

大阪を代表する河川である道頓堀川は都心部を流れる貴重な水辺空間です。大阪市が掲げるまちづくりの目標「水の都・大阪」再生に向け、東横堀川水門と道頓堀川水門の建設、道頓堀川の水辺に親水性の高い遊歩道を整備し、町のにぎわいを創出しました。

川のつながりを呼び戻し、将来にわたって人が集い・交わり・賑わう地域を創ることを目指した取組は、本県の川づくりに参考となりました。

### 【兵庫県津波防災インフラ整備計画・尼ロック】

兵庫県では、国の「南海トラフ巨大地震による最大クラスの津波想定(平成24年8月発表)」を踏まえ、その浸水被害の軽減のために、平成25年2月に「津波防災インフラ整備5箇年計画(暫定版)」をいち早く策定し、津波対策の全体像を示すとともに、防潮堤の越流対策・引波対策(基礎部の洗掘対策)などの津波対策に着手しました。さらに、地震動による防潮堤等の沈下対策の検討を行い、津波対策後の浸水区域の縮減効果をとりまとめ、「津波防災インフラ整備計画」を策定し、兵庫県沿岸部の特性に応じた効果的かつ効率的な津波対策を計画的に推進しています。

また、工業地帯として発展している尼崎において工場用地下水を汲み上げ続けた結果、地盤沈下が発生し海面よりも低い「ゼロメートル地帯」が発生する問題がありました。そこでジェーン台風や第二室戸台風を契機に潮位の高い海水を防ぐため、尼ロック(尼崎閘門)が設置されました。尼ロックは日本最大級の閘門で、市域の1/3を占める「ゼロメートル地帯」の安全を24時間体制で守っています。津波の危険性と対策を学び、尼ロック集中コントロールセンターから船の運航の様子を見学しました。



淀川アーバンキャンプ現地にて

## 静岡県河川協会河川等功労者表彰式

平成30年6月1日、もくせい会館（静岡市葵区）において「第51回静岡県河川協会総会」を開催し、「平成30年度（第35回）河川等功労者表彰式」を行いました。県内の治水、利水をはじめ、河川等の環境美化、水防活動等に多大な功績が認められた3団体3個人に対して、副会長である仁科喜世志函南町長から賞状と記念品が授与され、仁科副会長や市町の首長様、来賓の皆様と記念写真を撮影し、受彰者の勞をねぎらいました。



静岡県河川協会等功労者表彰式

市町名	氏名または団体名（敬称略）	主な功績
富士宮市	富士山御神火まつり 神輿部会	昭和59年から富士山本宮浅間大社の東側を流れる国指定特別天然記念物湧玉池を源にする一級河川神田川の清掃作業を行っています。また、河川美化チラシ配布や河川パトロール等の河川美化啓発活動に参加し、河川愛護意識の普及を行っています。
静岡市	海野 道廣	国土交通省所管の津渡野排水樋管操作人を静岡市から委嘱され、平成7年4月から現在に至るまで、延べ12年間樋管の操作業務に従事しています。
藤枝市	青島第12自治会	青島第12自治会に属する瀬古第1・2町内会及び、瀬古第3町内会が河川愛護活動を行っています。草刈り及び清掃活動を年1～5回、町内会役員が中心となり流域町内会会員303人が実動しています。
島田市	杉村 貴一	平成4年4月より現在に至るまで、大井川水系 下島樋管の点検・管理に長年従事されており、樋管操作及び点検を年間18回実施しているほか、周辺草刈等を行っています。
浜松市	天新エリカの路	平成15年に浜松市の河川里親制度の合意締結団体及び静岡県リバーフレンドシップ制度の登録団体になつて以来、15年にわたり、安間川の堤防の草刈り作業や清掃活動など河川の美化・保全活動を継続して行っています。
浜松市	早川 軍二	昭和58年4月に浜松市水防団飯田分団へ入団し、以後35年間にわたり水防活動の第一線で活躍しています。

## 河川関係事務研修会

平成30年9月12日に、もくせい会館（静岡市葵区）において、「平成30年度河川関係事務研修会」を開催し、県・市町から実務担当者ら55名が参加しました。

市町事例発表として、袋井市建設課 主任主査 長谷川 伸広氏により「袋井市中部豪雨災害対策アクションプランの取り組みについて」、沼津市河川課 管理係長 若林 伸弘氏により「『第23回水シンポジウム2018inふじのくに・沼津』の開催について」と題して発表していただきました。

河川実務講習会として、県の河川砂防局職員4名により「河川管理責任と水難事故防止」、「大規模洪水等に対する減災対策について」、「洪水対応タイムラインの積極的な導入について」、「会計検査への対応について」の講習を行いました。

最後に、静岡地方気象台水害対策気象官 須山 英典氏 が「防災気象情報の改善（危険度分布等）を振り返る」と題して講演を行いました。

## 災害復旧事業促進全国大会・治水事業促進全国大会

平成30年11月12日、災害復旧事業の促進と防災対策の強化推進を要望するため、「平成30年度災害復旧促進全国大会」が砂防会館別館（東京都千代田区）で開催され20名が参加しました。全国各地の災害復旧事業又は災害の防止事業に関し、長年に渡り献身精励し、顕著な功績があった個人及び団体が表彰され、県内から、奈木 邦夫氏、遠又 康郎氏、大久保 裕之氏の3名が表彰されました。大会終了後、静岡県選出国会議員に対して要望活動を行いました。

また、同年11月13日、平成30年度の治水事業費を確保する運動の一環として、「平成30年度治水事業促進全国大会」が砂防会館別館（東京都千代田区）で開催され本協会を含め本県から12名が参加しました。大会終了後には、県内選出国会議員に対して要望活動を行いました。



災害復旧促進全国大会

## 「平成30年度中部ブロック多自然川づくりサロン」にて、 一級河川稻瀬川における取組事例が「平成30年度全国多自然川づくり会議」 での発表事例として選出されました!

全国で進められている多自然川づくりについて、国土交通省中部地方整備局管内で実施されている事例を発表する「平成30年度中部ブロック多自然川づくりサロン」が11月2日に愛知県内で開催されました。

様々な事例が発表される中、静岡県代表として発表した富士土木事務所の稻瀬川の河床掘削における工夫を題材とした「未来へつなぐ～治水機能の維持と多自然川づくり～」が、全11事例のうち上位3事例に選出されたため、12月17日の「平成30年度全国多自然川づくり会議」においても事例発表を行いました。



中部ブロック発表(富士土木事務所 佐藤技師)



中部ブロック会場の様子



全国会議発表(富士土木事務所 鈴木技師)



全国会議(ポスターセッション)の様子

## 平成30年7月豪雨災害を踏まえた緊急対応について

平成30年6月の大坂府北部地震をはじめ、7月の西日本を中心とした記録的な豪雨など、全国的に大きな災害が相次いで発生したことから、これらの災害を教訓とした本県の防災対策として必要な経費を9月補正予算案として盛り込み、平成30年10月11日に県議会9月定例会で可決されました。

補正予算では、県内の河川等における追加の安全対策に要する経費として、河川の豪雨災害等緊急対策事業費を7.1億円、水位周知河川の指定拡大に伴う浸水想定区域の設定等に要する経費として、水害減災対策支援事業費を3億円、それぞれ計上しました。

河川の豪雨災害等緊急対策事業では、緊急的に対応が必要な箇所として太田川ほか57河川において、築堤区間や本、支川の合流点付近の河床掘削や伐木等のハード対策を実施します。

また、水害減災対策支援事業では、災害時における県民の適切な避難行動を実現するためのソフト対策として、災害拠点等に係る気田川ほか15河川の洪水浸水想定区域図を作成し、市町のハザードマップ作成を促進します。

緊急対応の実施により、防災減災対策を充実・強化させ、安全・安心な生活基盤の確立を目指してまいります。

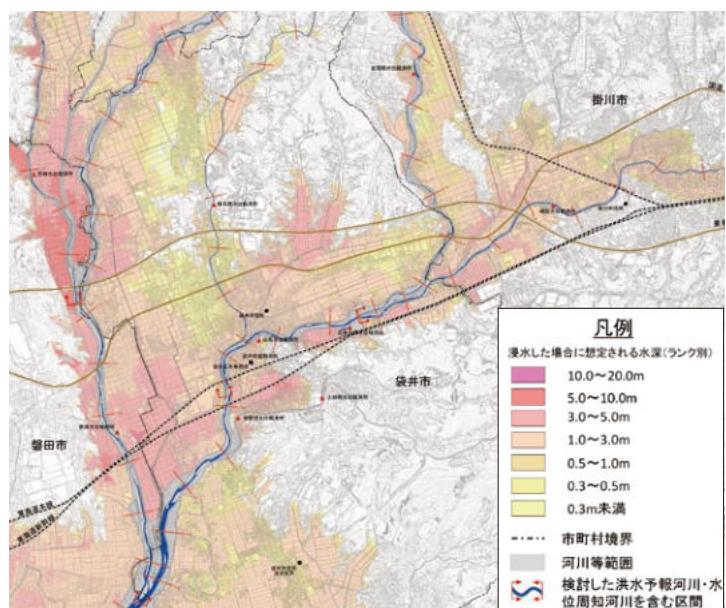
### ■平成30年度9月補正予算

(単位:千円)

事業名	補正予算額
豪雨災害等緊急対策事業費(河川)	710,000
水害減災対策支援事業費	300,000



河川の緊急対策



洪水浸水想定区域図の作成

## 海岸事業を進めています(清水海岸・竜洋海岸)

世界文化遺産富士山の構成資産として登録された三保松原については、登録過程において砂浜を保全するために設置した消波堤の存在が審美的観点において望ましくないとの指摘がありました。県は、これを受けて海岸工学や景観などの専門家等で構成された有識者会議を設立し、背後地の防護と景観の両立について検討を重ね、段階的に景観改善を進めることとしました。

現在、羽衣の松周辺から視認性が高い1号消波堤を、必要な防護機能を確保しつつ施設の視認性も改善される1号L型突堤に置き換える工事を進めています。

平成30年12月からはL型突堤を構成する縦堤の被覆ブロック等の据付作業に着手し、平成31年3月の完成を目指して整備を進めていきます。(右写真)



天竜川河床掘削土砂を活用した養浜



縦堤被覆ブロックの据付作業

遠州灘沿岸では、天竜川から海岸に供給される土砂が減少したことにより、各地で海岸侵食が進行しています。その中でも竜洋海岸は侵食が著しいことから、国土交通省と連携して天竜川の河床掘削土砂を活用した養浜を実施しています。

(左写真)

## 『第23回水シンポジウム2018inふじのくに・沼津』を開催しました

水に関する諸問題について、市民、学会、行政、民間が一堂に会して議論し、相互理解と情報共有を図る「水シンポジウム」が、平成30年8月23日(木)に沼津市のプラサヴェルデで開催されました。

今回は、「富士の麓で水を語らう～水のチカラ。多様な恵みや荒ぶる姿と暮らしの関わりを考える」をテーマに、水が自然や人に与える様々な恩恵と問題についての議論を行いました。

また、治水・防災・環境に関する基調講演として、土木研究所・水災害リスクマネジメント国際センター長の小池俊雄氏と伊豆半島ジオパーク推進協議会専任研究員の鈴木氏から講演いただいたほか、市民団体による発表として、わき水田宿川委員会より「世代を超えた交流による田宿川水環境保全活動」について、三島北高等学校より狩野川流域の治水対策に関する研究成果をそれぞれ発表していただきました。

最後に、シンポジウムを通じて、「積極的に川と関わり川の魅力を理解するとともに、正しく自然を畏れる術を身に付けよう」、「川の振る舞いを知り、正確な情報を収集して早めに行動に結び付けよう」、「行政・市民・企業・研究者との協働の下、行政だけではなくこの4者の協働の下、100年先を見越した川づくりを行おう」、「川づくりのための人づくりを積極的に進め、川づくりを通して豊かなコミュニティーを目指そう」の4つの提言が全国へ発信されました。

次回、第24回水シンポジウムは滋賀県で開催されます。



『第23回水シンポジウム2018inふじのくに・沼津』の様子

# 広島県呉市派遣職員レポート

土木防災課(広島県呉市派遣第1陣) 主査 大場 峰夫

静岡県交通基盤部では、公共土木施設の災害復旧事業の支援のため、平成30年7月豪雨により甚大な被災を受けた広島県呉市川尻安浦土木出張所に、平成30年9月10日より今年度末まで土木技術職員を派遣することとなりました。

第1陣は、平成30年9月10日から10月1日までの期間で支援を実施しました。

現地へ赴任して先ず感じたのは、「豪雨による土砂災害の恐ろしさ」でした。

広島県は、ほぼ全域が特殊土壌地帯となっており、水に弱い、浸食崩壊しやすい、性質変化が大きいという特徴をもつ「花崗岩風化土」が分布していることから、今回の豪雨においても多数の土砂災害による被害が発生しました。

現地の谷地形の箇所では、山頂付近から平地の中小河川まで一気に大量の土石流が流下した長い痕跡があり、この間に既存する道路では、流下した土砂や立木が路面を埋め尽くし、路側のガードレールや電柱が原型を留めず押し流されている状況でした。

また、被災を受けた集落では、生活圏の全てが土砂に覆われ、家屋のみならず、これまで道路や田畠であったと思われる箇所の確認も不可能であり、車より大きな巨石や家屋の柱や屋根の一部が混ざった土砂が被災当時のまま残っている地区も存在するような状況でした。

このような景色は、局所的に一部の地域に集中している訳でなく、呉市内の多数の箇所で見受けられ、今回の豪雨により同時多発的に土砂災害が発生したことが把握できました。

第1陣派遣当時における呉市の公共土木施設被害は、小規模被害も含め約5,000件を超え、年内中に全ての被災箇所の災害査定を完了させるべく、派遣先の川尻安浦土木出張所の職員の皆様との協力の下、災害復旧業務に従事しました。

今回の豪雨災害では査定が簡素化されましたが、被災箇所が多いことから災害協定建設業者及び測量・設計コンサルタント業者も不足しており、限られた職員で、膨大な数の災害査定を実施しなければならない大変厳しい状況がありました。

このため、本県派遣職員も現地測量、設計、図面作成、積算等の業務を直営で実施することが求められましたが、本県と異なるCADソフトや積算システムと奮闘しながらも、川尻安浦土木出張所の職員の皆様の親切・丁寧な指導や助言のお陰で、無事、第1陣の派遣業務を完了することができました。

今後も、第2陣以降の本県派遣職員が川尻安浦土木出張所の職員の皆様と協力し、災害査定の完了、施設の復旧に向け、災害復旧業務に取り組んでいくこととなります。

派遣先である川尻安浦土木出張所の職員の皆様に感謝するとともに、現地の一日も早い復旧を願います。



国道31号・JR呉線埋塞状況



準用河川 山田谷川 護岸被災状況

# わがまちの 川自慢

## 東伊豆町

東伊豆町は、西側に天城山脈、東側に相模灘を望む海岸を有する、自然豊かな町です。天城山の山頂付近と海岸線沿いは、富士箱根伊豆国立公園に指定されています。その中で北部を流れる大川川、中部を流れる白田川について紹介します。

大川川では、昭和55年に県水産試験場によるアマゴの試験放流が行われました。その後、静岡県内水面漁場管理委員会の指示で上流及び各支流が採捕禁止区域（保護区域）に指定され、天然アマゴの保護を行ってきました。現在では天然アマゴによる再生産が行われており、このような河川は県下でも本河川以外ではなく、大川川の環境にあった生態系が維持されて全くの手付かずの自然が残されています。毎年2月には放流が行われ、8月には、つかみ取り大会が開催されています。

白田川では、マス、アユ、アマゴ、ウナギの放流が行われており、毎年3月から12月までの期間、釣りを楽しむことができます。また、3月の第3曜日にはマス釣り大会が開催され、釣り愛好家の方々に喜ばれています。豊かな自然を味わえる東伊豆町に是非お越しください。



白田川「マス釣り大会」



大川川「アマゴつかみ取り大会」

【お問合せ先】東伊豆町建設課 TEL:0557-95-6303

## 伊豆の国市

伊豆の国市の中心部を流れる一級河川狩野川。その堤防を中心に新たな名所「読売巨人軍長嶋茂雄ランニングロード」が平成28年に誕生しました。

日本野球界の至宝である長嶋茂雄読売巨人軍終身名誉監督（以下「長嶋氏」という。）は、現役時代の昭和42年から48年までの間、伊豆の国市（旧大仁町）を拠点として自主トレーニングを行っていました。そして、これを報道するマスコミにより、「大仁」の名が全国に知れ渡りました。



記念モニュメント

当市では長嶋氏に感謝と敬意を顕したく、長嶋氏が当時トレーニングをしていた道などに「読売巨人軍 長嶋茂雄ランニングロード」と命名しました。制定にあたり道沿いには記念モニュメントが設置され、長嶋氏本人も当市を来訪されました。その後も読売巨人軍OBを講師に招いた少年野球教室が毎年開催されるなど、当市の活性化に寄与いただいております。

皆さんも現地を訪れ、国民的大スター長嶋氏がかつてトレーニングをした道を歩き、思いを馳せてみてはいかがですか？

【お問合せ先】伊豆の国市都市計画課 TEL:055-948-2909



読売巨人軍 長嶋茂雄ランニングロードから狩野川・城山を望む

## 『第18回しづおか川自慢大賞』が開催されます



第17回しづおか川自慢大賞の様子

『第18回しづおか川自慢大賞』が、平成31年2月9日(土)に静岡市民文化会館にて開催されます。しづおか川自慢大賞は、1年に1回開かれる川仲間の活動発表と交流の場です。水辺が好きな仲間同志、見たり聞いたり情報交換もできる楽しい場です。どうぞみなさん遊びにきてください。

### 【お問合せ先】

しづおか川自慢大賞実行委員会

TEL:054-248-5678

## 河川・海岸、道路愛護団体等表彰式を開催しました

県では、県民の暮らしを支える大切な財産である河川や海岸、道路の愛護思想の普及を図っており、7月の「河川愛護月間」「海岸愛護月間」、8月の「道路ふれあい月間」において、重点的な取組を進めています。

その一環として、長年にわたり愛護運動に尽力し、その功績が特に顕著である個人や団体に対し、知事表彰を行っています。今年度は、8月24日(金)に県庁で表彰式を行い、難波副知事から河川・海岸関係7団体と道路関係4団体の計11団体に対し、知事褒賞を授与しました。

受賞された皆様の御活躍により住みやすい地域づくりが一層推進されるとともに、愛護活動の輪が広がっていくことを期待

しております。



H30表彰式写真

### 受賞団体:

(河川・海岸) 上多賀町内会、小山町向方区、稻川町内会、稻葉第1自治会、磐田市自治会連合会福田支部、頭陀寺町自治会、半田町自治会  
(道路) 朝霧ハイランド株式会社まかいの牧場、女神花の会、西萩間花の会、天竜花の会下阿多古支部(以上、敬称略)

### 静岡県河川協会事務局より

- ◇来年度の静岡県河川協会理事会及び総会は、5月30日(木)に開催を予定しております。皆様の御出席をよろしくお願ひいたします。
- ◇来年度の中北部地方治水大会は静岡県で行います。10月23日(水)に開催を予定していますので御出席をお願いいたします。
- ◇毎年御好評をいただいている静岡県河川協会県外視察研修会は、来年度も予定しております。多数の御参加をお願いいたします。
- ◇事務局では皆さまからの御意見をお待ちしております。  
紹介したい事例、イベントなどございましたら、事務局までお気軽に御連絡ください。
- ◇また、清流表紙に掲載する静岡県内の水辺の写真を募集しております。詳しくは下記宛にお問い合わせください。

【連絡先】 〒420-8601

静岡市葵区追手町9番6号

静岡県河川協会(静岡県交通基盤部河川砂防局内)

TEL:054-221-3032 FAX:054-221-3260

E-mail:kasenk\_s@yahoo.co.jp

## 公益社団法人 日本河川協会 個人会員募集のお知らせ

公益社団法人 日本河川協会では個人会員の募集をしております。

詳細につきましては下記宛にお問い合わせ下さい。

お問い合わせ先／公益社団法人 日本河川協会

〒102-0083

東京都千代田区麹町2丁目6番5号

麹町E. C. Kビル3階

TEL:03-3238-9771

FAX:03-3288-2426